

委 託 事 業 の 経 過

委 託 者 ： 財団法人 第 一 住 宅 建 設 協 会

委託事業実施者 ： 財団法人 日本住宅・木材技術センター

1. 木造住宅における居住性についての基本的研究

(財)第一住宅建設協会の委託を受け、(財)日本住宅・木材技術センターでは昭和53年度から昭和56年度にかけて「木造住宅における居住性についての基本的研究」を実施した。

この事業の遂行に当っては、当センターでは居住性研究について長い経験と知識をもつ学識経験者等で構成する「居住性委員会」を特に設置して実際の調査に当たった。

居住性委員会は、各年度毎の事業の内容によって若干の委員の増減、変更はあったが、すでに、「居住性に関する既往の研究成果・意識調査などの収集、分析」、「各界専門家の専門的立場からのヒアリング」、「各種住宅居住者に対する居住性等についてのアンケート調査」を実施し、これらの成果をとりまとめて、「文献リスト」、アンケート調査結果等の分析からの「木造住宅の住みごころ」、「住宅の間取り」、および「住宅の積載荷重に関する調査」等の報告書、パンフレットを作成した。

2. 昭和57年度以降における委託事業

引きつづいて、(財)第一住宅建設協会の委託を受け、昭和57年度及び昭和58年度においては、基本的な調査にかかわって、委託事業の実施内容を限られた条件の中で実施しうる規模の居住性——とくに住宅内における生活条件に関連した温度・湿度の影響についての実験的調査研究、すなわち

昭和57年度は、「住宅空間内の温・湿度に起因する居住性改善に関する

調査研究」

昭和 58 年度は、「住宅の水まわり部位，部材の温湿度に起因する耐久性に関する調査研究」

を実施した。この委託事業の遂行には，当センター内に設置した「居住性委員会」が主体に行った。

1) 居住性委員会の委員構成

委員：有馬孝禮（静岡大学）

〃：岡野健（東京大学）

〃：葉石猛夫（林業試験場）

〃：南澤明子（日本女子大学）

事務局：嵯峨途利（財）日本住宅・木材技術センター）

2) 委託事業の目的

構造上，施工上等における木造住宅の合理化，部材・部品性能等については多くの研究成果がある。また，居住性すなわち住宅内の住みごころについては木材，木質材料，部材の性能等からみた居住性能の成果はある。しかし，実際に人が生活している居室等についての住宅内における温湿度に関する調査等の資料は乏しい状態である。したがって，本委託事業では，実際に生活している住宅内の特定の場所において，約 1 ケ年間に亘って連続して温度，湿度を測定し，いろいろの生活条件に関連のもとに分析を行い，これらの結果を住みごころいしかも寿命の長い木造住宅建設への基礎資料とすることを目的とした。

3) 昭和 57 年度委託事業

居住状態下（常時，人が生活を営んでいる）における実験供試住宅としては「居住性委員会」の 4 名の委員の住宅を選んだ。この 4 名の委員宅は，2 委員が戸建の木造軸組工法住宅（所在：東京都世田ヶ谷区内および千葉

県船橋市），２委員がコンクリート中層集合住宅（所在：静岡県清水市および茨城県新治郡桜村並木）である。

各委員宅の居室内の特定個所に夫々２台の電子式自記温湿度計を設置して、年間（昭和５７年９月から５８年８月）を通じて温度、湿度の変化を測定し、２つのタイプの構造による一般的な温湿度の傾向、居室の使い方による傾向、年間を通じての一般的気象変化および特異的気象変化の影響、居住者の生活状態による傾向等の諸条件との関連を分析した。なお、この５７年度委託事業報告書は別冊にとりまとめた。

また、本委託事業における年間を通じての測定には、４名の委員の他に各委員の御家族の方々の多大の協力があつた。ここに御家族の方々に対し厚く御礼申し上げる次第である。

４）昭和５８年度委託事業

居住状態下における静岡市内の木造軸組工法住宅を供試実験住宅に選び、壁内、浴室、キッチン、居間等の床下において、年間を通じて温度、湿度を測定、分析した。また、併せて床下モデル試験により居住状態下での実測の傾向との比較を行った。

この実験は、有馬孝禮委員が中心となつて行い、居住性委員会の外に、佐藤雅俊氏（建設省研究研究所）、岡崎 光氏（静岡大学教授）、丸山則義氏および早村俊二氏（静岡大学）、ならびに稲葉哲哉氏および鎌田路子氏（静岡大学学生）の協力を得た。協力された方々に厚く御礼申し上げる次第である。

本報告書は、この昭和５８年度委託事業の成果をとりまとめたものである。